

第2回委員会での意見と対応

分類	項目(目標)	委員からの意見	資料	対応結果
調査関係	交通事故	・交差点事故の発生状況	資料2-P1	・交差点・単路別の事故発生状況を分析
		・第1当事者が自転車、被害者が自動車となる事故の調査	資料2-P2	・交通事故データから山梨県の特徴を分析 →第1当事者が自転車となる事故
		・年齢別事故割合と自転車利用者割合との関係 ・他県との比較ができれば特徴がつかめるのではないかな	資料2-P3	・他県と比較を行う
		・道路構造別(発生道路部位)のグラフは不要	—	・推進計画の資料から削除
		・地域によって事故発生状況が異なるため、各市町村に確認ととった方がよい	—	・具体の施策検討段階で分析を行う
	様々な自転車施策	・家庭の自転車の保有台数・保有率がわかるとよい	—	・(一財)自転車産業振興協会の推計値にて確認する
	自転車の利用環境(利用実態アンケート)	・山梨県内在住者の母数が少ないため参考値程度とした方がよい	—	・山梨県内在住者を対象に集計した結果は参考値として扱う
・利用車種(持参、シェアサイクル・レンタル)を確認しているか		資料3-P6	・観光利用に対して、利用車種(自分の自転車、レンタサイクル・シェアサイクル)を調査している	
ヒアリング調査	・まちを普通に利用している歩行者側の意見が聞けるとよい	資料3-P15	・ヒアリング調査時に歩行者側の視点でご意見をいただく	
施策関係	全体	・計画期間は、あまり長い計画ではなく短期間として見直しながら行うのがよいのではないかな	資料4	・実施スケジュールとして「短期」、「中期」、「長期」を設定し、「短期(2020年度まで)」等の取組を踏まえ、適時、フォローアップや見直しを行いながら計画の推進を図ることとする。
		・計画を進めるにあたり、連携した組織づくりができるとよい	資料5-観光	・設置済みの庁内検討会において部局毎の連携に努める(優先的に施策を進めるモデルルートなどについては、官民が連携する組織等の設置に取組む)
		・施策の方向性が多岐に渡るため、優先順位が必要である。優先地域を設定し、重点的に進める等の工夫が必要である	資料5-スケジュール	・施策については、実施スケジュールの「短期」を優先的に進めることとし、整備に関しては、モデルルートや「やまなし自転車ネットワーク(仮称)」等で設定された地域などを優先的に進めることとする
	観光	・自転車利用者への受け皿の整備を地域と連携し進めていく必要がある	資料5-観光	・取組(案)の「官民連携による先進的なサイクリング環境の整備」にて対応
		・走りやすい道があることを発信することも一つの方法と思われる。動画による広報も考えられる ・山梨県は自転車にやさしい県であることを周知する等、メディアを活用してほしい	資料5-観光	・取組(案)の「エリア別のサイクルツーリズムの取組紹介」にて対応
		・スポーツ寄りだけではなく、家族連れ等も対象として展開した方がよい	資料5-観光	・取組(案)の「多様な利用者層を考慮したサイクリングルート、観光スポットの情報発信」にて対応
	まちづくり・環境	・広域的なネットワーク整備に重きを置いた方がよい。ルート設定と自転車通行空間整備、部署間連携等が必要	資料5-まちづくり	・施策の方向性(案)の「やまなし自転車ネットワーク(仮称)および市町村版自転車活用推進計画の策定」において、広域サイクリングネットワークを設定する
		・今後、自転車が増加することを想定した違法駐輪対策が必要	—	・担当部署で検討
		・観光地の道路が狭い箇所では、一方通行化する等のトライアルをしてもよいと思う	—	・具体の施策検討段階で分析を行う(担当部署で検討)
	安全・防災	・中学・高校の自転車教育を充実させた方がよい ・中高生の逆走が多いため教育が必要である	資料5-安全	・取組(案)の「小・中・高等学校へ自転車の安全運転を周知」にて対応
		・一般の自転車店でのクラブ活動で安全活動を行った方がよい	資料5-安全	・取組(案)の「交通安全運動等の機会を利用した、ポスター掲示やチラシ配布による啓発活動」にて対応
		・安全対策として道路構造面での対策を盛り込んだ方がよい	資料5-まちづくり	・施策の方向性(案)の「やまなし自転車ネットワーク(仮称)および市町村版自転車活用推進計画の策定」、「自転車通行空間の整備」にて対応
		・さいたま市の「子育てパパ・ママ自転車アシストプロジェクト」、「自転車運転免許証交付」の施策を参考してほしい	資料5-安全	・取組(案)に追加
		・高齢者事故が課題となるため、ルールや基本的な走行技術を養う取組があった方がよい	資料5-安全	・取組(案)に追加
		・幼児及び保護者に自転車に関するルールを伝えていった方がよい	資料5-安全	・取組(案)の「幼児及び保護者への自転車に関するルールの周知の検討」にて対応
		・安全という意味では、ブルーラインではなく矢羽根やピクトグラムとした方がよい	資料5-まちづくり	・施策の方向性(案)の「自転車通行空間の整備」にて対応
		・自転車と自動車との共存を教育する必要がある。春の安全運動や自転車ショップの方と協力して進めることが効果的と思われる	資料5-安全	・取組(案)の「交通安全運動等の機会を利用した、ポスター掲示やチラシ配布による啓発活動」にて対応
・1.5m運動の表現は賛同が得にくい場合があるため、距離をにおいて追い抜く等、表現を修正した方がよい	資料5-安全	・資料内の表現に留意する		
健康・スポーツ	・県民の方に自転車利用を促す取り組みを考えた方がよい ・県民の方が自転車に興味を持ってもらえるイベント等(信玄公祭りの自転車イベント等)を展開した方がよい ・住民との連携が重要である	資料5-健康	・施策の方向性(案)の「サイクルスポーツ振興の促進」にて対応	
	・境川競技場は老朽化してきており、施設を維持できるようにしてほしい	—	・担当部署で検討	